

解説

# アイレック技建の 環境保全の取り組みについて

もり じろう  
森 治郎

アイレック技建(株)  
非開削推進事業本部営業部長  
(本誌編集委員)

## 1 はじめに

アイレック技建(株) (以下、アイレック) では、2012年3月からエコアクション21の認証を受け環境保全活動を続けています。これまでは、2014年度を基準年度とし2015年度から2017年度の3か年の中期環境目標に対して取り組みを行ってきました。2018年度には、これまでの実績や社会の取り巻く環境、NTTグループの動向を鑑み、新たな中期環境目標として「アイレック2030」を制定し、それに基づき現在も取り組みを続けています。

本稿では、中期環境目標「アイレック2030」を紹介するとともに、アイレックが取り扱う掘進機械「エースモール」のCO<sub>2</sub>削減貢献量の「見える化」について紹介します。

## 2 中期環境目標策定の背景

### 2.1 環境に関する社会情勢

2015年9月、国連の「持続可能な開発サミット」にて持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals = SDGs) が採択されました。また、2015年12月、国連気候変動枠組条約第21回締約国会議 (COP21) にて「パリ協定」が採択され、2016年11月3日に発効、日本も11月8日に批准しています (図-1、2)。

このように国際的な環境保全の取り組み機運の高まりの中、日本国および日本企業にもそれらの考え方や目標と連動した取り組みが求められています。



図-1 SDGs 17の目標

国名	削減目標
中国	GDP当たりのCO <sub>2</sub> 排出を 2030年までに <b>60-65%</b> 削減 2005年比
EU	2030年までに <b>40%</b> 削減 1990年比
インド	GDP当たりのCO <sub>2</sub> 排出を 2030年までに <b>33-35%</b> 削減 2005年比
日本	2030年までに <b>26%</b> 削減 ※2005年比では25.4%削減 2013年比
ロシア	2030年までに <b>70-75%</b> に抑制 1990年比
アメリカ	2025年までに <b>26-28%</b> 削減 2005年比

図-2 パリ協定による各国のCO<sub>2</sub>排出削減目標 (JCCCAのwebサイトより)



安心・安全なコミュニケーション	私たちは、社会を支え生活を守る重要なインフラを提供する企業グループとして、社会的・倫理的な課題の克服に真摯に取り組み、情報セキュリティの確保や災害・サイバー攻撃にも強い安心・安全なコミュニケーション環境を提供します。
人と社会のコミュニケーション	私たちは、社会の持続的発展のため、お客さまのデジタルトランスフォーメーションをサポートすることにより、現在生じている国内外のさまざまな社会的課題に加えて、今後の技術革新の結果もたらされる新たな社会的課題の解決にも取り組み、より豊かでスマートな社会の実現に貢献します。
人と地球のコミュニケーション	私たちは、グループ事業全体にわたって環境負荷を低減し、ICTの利活用による社会全体の環境負荷低減に取り組み、さまざまな地球規模での環境問題の解決に努めます。
チームNTTのコミュニケーション	私たちは、「チームNTT」として、さまざまなパートナーの皆さまとともに高い倫理観と人権意識を持って事業に取り組み、ダイバーシティを尊重した働きやすい職場環境の整備や個の成長に努め、豊かな地域社会づくりに貢献します。

図-3 4つのCSRテーマ

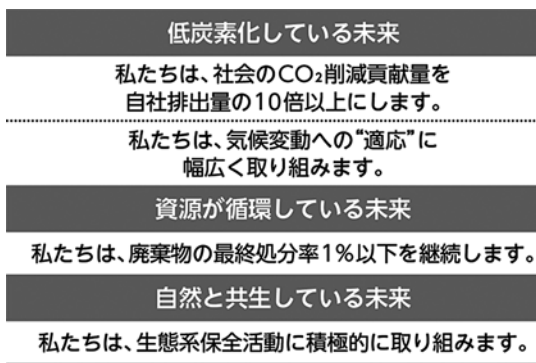


図-4 NTT東日本グループ環境目標2030 (NTT東日本Webサイトより)

## 2.2 NTTグループの取り組み

国際的な動きを受け、アイレックが属するNTTグループもそれらにあわせた取り組みをはじめました。NTT東日本グループは「NTTグループCSR憲章」を土台に4つのコミュニケーションに沿った重要テーマごとにKPI(キーパフォーマンス指標)を設定し、CSR活動に取り組んでいます。また、国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向け、ICTを通じた付加価値の高いサービスをさまざまな分野で提供し、社会課題の解決に貢献しています(図-3)。

4つのテーマのうち「人と地球のコミュニケーション」では環境保全に取り組んでいます。パリ協定で設定された気温上昇幅の指標に近づけるため各国が取り組みを進める中、日本では温室効果ガス排出削減目標26%(2013年度比)を掲げています。NTT東日本グループでは「NTT東日本グループ環境目標2030」を制定し、社会全体の二酸化炭素削減や自社電力使用量削減に取り組んでいます(図-4)。

## 2.3 エコアクション21

エコアクション21は日本国内で誕生した制度で、中小

企業が行う環境にやさしい経営の取り組みに対して審査し、認証を与える制度です。1996年に環境省が計画して普及を進めてきており、アイレックも認証を受けています。

地球温暖化を防ぎ、資源の浪費をおさえる環境経営の国際的な基準である「ISO14001」が大企業向けの国際基準であるのに対し、エコアクション21は中小企業向けの環境経営の基準です。

環境マネジメントシステム、環境パフォーマンス評価および環境報告をひとつに統合したものであり、エコアクション21に取り組むことにより、中小事業者でも自主的・積極的な環境配慮に対する取り組みが展開でき、かつその取組結果を「環境活動レポート」としてとりまとめて公表できるように工夫されています。

パリ協定やSDGsの採択を背景に、経営の中に環境への取り組みを位置づけることで、中小企業でも無理なく環境経営の取り組みと本業との統合を図ることができるよう、ガイドラインが改定されました(図-5)。

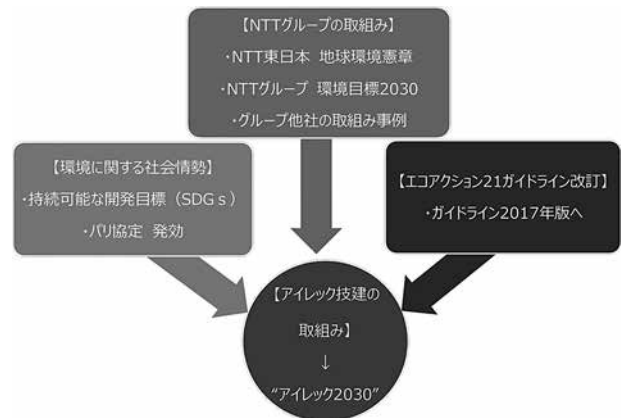


図-5 アイレックを取り巻く環境

## 3 中期環境目標「アイレック2030」

前述のアイレックを取り巻く環境情勢を背景に「NTT東日本グループ環境目標2030」をフォーマットとして「アイレック2030」を策定しました(図-6)。